

左から
ミゲル・エルナンデス
フェデリコ・ガルシア・ロルカ
ファン・ラモン・ヒメネス
アントニオ・マチャード



今から70年前、スペインを真っ二つにした内戦があった。
血を分けた兄弟同士が殺し合った。
それでも絶望せず、希望を捨てず、
共和国政府を、民主主義を守ろうとした四人の詩人がいた。

亡命先のフランスで客死したアントニオ・マチャード。
ブエルトリコに亡命したファン・ラモン・ヒメネス。
フランス側に暗殺されたフェデリコ・ガルシア・ロルカ。
死刑宣告を受け、獄中で病死したミゲル・エルナンデス。

四人の詩人は芸術の名の下に平和を後世に伝えた。
だがその声は本当に聞き届けられたただろうか。
今こそ彼らの声に耳を澄ませる時ではないただろうか。

小島章司の舞踊生活50周年を記念して、
今をときめくスタッフが顔を揃える。

振付はスペイン国立舞踊団やエバ・ジェルバブエナを始め
多方面で活躍中のスペイン屈指の振付家、ハビエル・ラトーレ。
作曲・音楽は今脚光を浴び続けるギターの名手、チクエロ。
そして舞台美術はスペイン在住で
フラメンコと深く関わっている堀越千秋。
全く新しい舞台空間創造への挑戦が始まった。

半世紀を踊りに捧げてきた小島章司が、
未来に向かって、生という名の詩を解き放つ。

Antonio Machado

アントニオ・マチャード 〈1875-1939〉

セビーリヤ生まれ。父アントニオ・マチャード・アルバレスは高名な民俗学者。ドイツやイギリスをモデルにした進歩的教育方針で知られるマドリードの自由教育学院に学ぶ。1899年、兄マヌエル・マチャードが暮らすパリに遊学し、小説家のオスカー・ワイルドやピオ・パロウハと親交を深める。1902年、ふたたびパリに赴き、ニカラグア生まれでモデルニスモの中心メンバーである詩人ルベン・ダリーオと知り合う。マドリードに戻り、詩人ファン・ラモン・ヒメネスと親しくなり、初めての詩集『孤独』を発表。1907年、カステリーヤの町ソリアでフランス語教授の資格を取得。『孤独』の増補改訂版である『孤独、回廊、その他の詩』を発表。1909年、レオノーレ・イスキエルトと結婚。1912年、妻が結核で他界。精神的危機に陥り、ハエンの町バエサに転居。代表作となる詩集『カステリーヤの野』を発表。1917年、バエサでガルシア・ロルカと知り合う。1924年、詩集『新しい歌』を発表。1927年、王立言語アカデミー会員に選出される。スペイン内戦中は共産党員で人民戦線結成の立役者であるドロレス・イバルリを賞讃、国際旅団の活動を称揚するなど共和国政府を熱烈に支援。「本当のスペイン、共和国政府に忠実なスペインは決して君たちを忘れない」と国際旅団を鼓舞する演説をする。1939年に共和派が敗北すると南フランスのコリュールに亡命。ほどなくして母が死去、その三日後に彼も後を追うようにして物故。

Juan Ramón Jiménez

ファン・ラモン・ヒメネス 〈1881-1958〉

ウエルバ県モゲール生まれ。十代の終わりにマドリードに出てルベン・ダリーオやバリエ・イン克蘭らのモデルニスモ作家と知り合う。1917年、彼がこよなく愛した故郷モゲールを舞台にしたロバと少年の魂の交流を描いた散文詩集『プラテロとわたし』を発表、各国語に翻訳され世界的な名声を博す。その後は装飾的要素を取り払った「純粹詩」を追求した。28歳のとき、スペイン人の父とブエルトリコ人の母を持つセノビア・カン

ブルビーと結婚。いかなる政治や社会情勢には無関心から「理想主義者」としてたびたび国首相マヌエル・アサーニ。1936年7月1日、「軍事蜂起和派への支持を明らかに」に逼迫し、妻の母の故郷でロジーを出版する計画が、への移住を決める。マヌエ化担当官に任命されアメリカのスペインを救うべくあちこち動が盛んだったルーズヴェ得られなかった。1937年、の集会に出席。1939年ニードの訃報に接する。ワシレスを転々とし、1951年、セコに移り住み終の棲家とするの知らせを受け、その三日で彼自身もこの世を去る。

Federico García Lorca

グラナダ県フエンテ・バケリ留学を希望したが、頼みに文学に転じた。マドリネスやサルバドル・ダリ1921年、処女詩集『詩の本デ・ファリヤの協力の下、カブラ宮殿で開催。詩人として古くから伝わる伝承詩『歌集』と、『カンテ・ホンドの克服するべくアメリカに渡当たりにし、資本主義社会ーバを訪問。アメリカでのイ人』として発表。1931年、を中心とした移動劇団『ラ会主義者のフェルナンド』の資金援助を受け、セルノ劇をスペイン各地で上演、身の戯曲『血の婚礼』(19成功を取め、スペインのみ中南米諸国でも詩人・劇作する。ファシズムの脅威が噂されると人民戦線支持ポークスマンとみなされる。的な母親の支配に苦しむ女アルバの家』を執筆。活動の事態になると、周囲の反ラナダに帰り、友人だった詩しかしファランへ党員だっ側に捕らえられ暗殺された

Miguel Hernández

アリカンテ県オリウエラ生、から山羊の世話が大好きになり、教師たちが父親にせるべきだ」と諭すが、学教養に飢えていたミゲルは暇を惜しんで読書に耽つ